

かけだしの頃

今だから話せるゲンバの失敗

入社して四年目、東京勤務になって初めて任された現場での失敗です。

工事は都道の路面打換工事。初めての夜間工事でした。道路は五層になっていて、一番底に碎石、その上に三層からなるアスファルトの構造になっています。打換工事は、路面が傷んだ古いアスファルトを剥がし、碎石の部分を掘削して新しく碎石を二層分入れ直し、三層からなるアスファルトの一層目と二層目を敷いていきます。最上部のアスファルトは後日最後に仕上げます。失敗は一層目のアスファルトを敷く直前に、作業員の「薄ベニヤはどこにあるんだ」という指摘で気付きました。

今回の工事は、上下二車線のうち一車線を止めて、片側ずつ施工していきました。当然、片側の車線を施工するときは反対車線のアスファルトは残ったままです。この状態で、何も手当てせずにアスファルトを

敷くと、反対車線のアスファルトを剥がす際に新しいアスファルトと一緒に起き上がってしまい、破損の原因になります。そのため、境目に薄いベニヤ板を挟むのですが、それまでそういった経験がなかった為、一瞬言っていることが理解できませんでした。

ここで夜間の工事というのが利いてきます。昼間であれば、事務所の仲間を持ってきてもらう、近くで調達するなど対処ができませんが、それができません。すぐに段取りを組み直し、作業員一人を割いて心当たりがある場所を探しに行ってもらいました。結局、薄ベニヤ板は見つかりませんでした。したが、厚いコンパネで代用して制限時間ぎりぎりまで間に合わせることができました。夜間の工事は、一つものが足りないといふ事の段取りが狂ってきます。「対応できなかった」ではそこで工事は止まってしまいます。「段取り八分」とはよく言ったもので、

株式会社 NIPPO 北信越支店
新発田出張所 所長

柴田 俊直

平成6年(1994年)株式会社 NIPPO に入社。以来、九州、関西、関東など日本各地の支店勤務を経て現在に至る。



もっと事前に先輩や職長などとよく打ち合わせ、段取りをきちんとしなければならなかった。それを身に染みて経験した出来事でした。今思い出しても恥ずかしい失敗ですが、若い方には色々な人の意見を積極的に聞いて自分がベストだと思う段取りを組み立て現場に臨んでほしいと思います。

今の土木業界は、ご存じのように景気の悪化、公共工事の縮減等で非常に厳しい環境にあります。そのような中で働く若い方は自分の仕事に生き甲斐を見いだせない方もいるかもしれません。社会や政治に対する不安や不満もあると思います。しかし、誰しも自分の会社を盛り立てたい、日本の未来を支えたいという気持ちや少なからず持っていると思います。そういう気持ちを腐らせずに頑張ってください。

最後に「がんばれば東北！ 負けるな日本の若者！」ご安全に。